

2019年度 社会連携研究プロジェクト活動報告書

2020年 5月 29日

和光大学地域連携研究センター
センター長 小林 猛 久 殿

代表者氏名 高坂康雅

研究プロジェクトの名称 大学を中心とした地域の不登校支援ネットワークの構築					
研究目的 本申請プロジェクトでは、大学を中心として、地域にいる不登校の子ども、不登校の子どもを抱える親・家庭、不登校の子どもの支援を行う者(教師、支援者など)、不登校など困難を抱える子どもの支援を行うことを志望している学生などが相互につながり、不登校に対する情報交流とより良い支援を行うための連携・協力を行うためのネットワークを構築することを目的とした。					
プロジェクト所属メンバー (氏名の右の欄に、本学専任教員＝教、共同研究員＝共と記入してください。)					
高坂康雅	教				

研究活動の経過 (800字以内) (打ち合わせ、報告、招待講演、調査旅行などの月日、テーマ、報告者、目的地などを記入してください。)
2019年4月～2020年3月 適応支援室「いぐお～る」開室(毎週火曜日9:30～15:30) 2019年4月20日(土) 町田市不登校の親の会「いぐぷらす vol.9」開催 2019年7月27日(土) 町田市不登校の親の会「いぐぷらす vol.10」開催 2019年11月2日(土) 町田市不登校を学ぶ会「いぐあるふぁ vol.1」及び町田市不登校の親の会「いぐぷらす vol.11」開催 2020年1月25日(土) 町田市不登校の親の会「いぐぷらす vol.12」開催 2020年2月22日(土) 不登校児・被虐待児のための支援策後援会2020(きがるにつながる町田の会との共同企画)

研究成果の概要（1200字程度）（どのような方法で調査、研究を行ない、どのような新知見が得られたか。またそれを今後どのように活かすことができるか、など）

本プロジェクトの2019年度の主な活動は適応支援室「いぐお～る」の開室と、町田市不登校の親の会「いぐぶらす」の開催、町田市不登校を学ぶ会「いぐあるふぁ」の開催であった。

適応支援室「いぐお～る」は2019年度も毎週火曜日に34回開室し、主に町田市在住あるいは町田市内の小中学校に在籍する不登校状態または不登校傾向の児童生徒9名を受け入れた。学生スタッフとの交流を通して、精神的健康や社会性の高まりがみられ、学校に登校する者もみられるようになった。2020年3月には4名の中学3年生が卒業したが、いずれも高校への進学が決定しており、2020年4月より高校に通学している。適応支援室「いぐお～る」は、不登校支援の重要な資源として、町田市のなかでも認知されてきており、現在の活動を継続することが、不登校状態・傾向の児童生徒とその保護者、学校、地域においても求められていると考えられる。今後は、学校や地域との連携の取り方が課題となる。

町田市不登校の親の会「いぐぶらす」は2019年度に4回開催し、不登校状態・傾向の子の保護者やかつて子が不登校状態だった方など延べ100名程度が参加し、交流・情報交換を行った。また、町田市不登校を学ぶ会「いぐあるふぁ」では、不登校を経験したが現在は大学に通っている大学生2名（うち1名は「いぐお～る」卒業生、もう1名は和光大学学生）と、不登校であり高校に進学した子をもつ母親1名の3名に登壇してもらい、それぞれの経験や考えなどを話してもらい、また参加者との意見交換なども行った。

子が不登校になること、親は情報的孤立、対人関係上の孤立、物理的孤立など多様な孤立に直面する。適応支援室「いぐお～る」や町田市不登校の親の会「いぐぶらす」、町田市不登校を学ぶ会「いぐあるふぁ」での活動を通して、不登校の子に対する支援はもちろん、不登校の子をもつ親・家族への支援を行うことで、不登校の子に対するより効果的な支援が行われると考えられる。

成果の発表文献（標題、著者名、雑誌名、巻号頁、発行年等）

（発行年は厳密に2019年4月～2020年3月に刊行されたものだけに限らず若干前後のものも含めてください）

※ 用紙が足りない場合は別紙を添付してください。

※ できるだけこのデータに入力いただき、Eメールでご提出ください。

※ 提出期限：2020年4月30日（木） 提出先=企画室企画係（岡本） kikaku@wako.ac.jp（企画係）